

# 福島県南相馬の先生が語る 「子どもたちと希望を紡ぐ」

8月25日、福島県南相馬

市の先生を迎えてお話ししていただきました。講演の内容は

「子どもたちと共に希望を紡ぐ」本の泉社(1600円)

から出版されています。

ご希望の方は支部会館へ  
042-384-2941

## 原発と子どもの不安

「放射線を浴びて子どもはガ  
ンになりやすいというのは  
本当ですか」

「なぜ外で遊べないの」

「私避難所で汚染されたらし  
い牛肉を食べたの。私、大  
丈夫ですか？」

「早く原発問題がおさまって、  
〇〇君たちと外でおもいっ  
きり遊びたいです」・・・

子どもたちが感じている疑  
問や原発事故への率直な意見  
が出される中で教育活動をさ

れてきました。

十月十七日、避難先から戻  
り原町第一小学校は児童数の  
四分の一の人数で静かに再開  
されました。

(以下著書より抜粋)

「休み時間には二時間を上限  
に校庭で遊んでよいとしたが、  
実際に子どもたちが校庭に出  
たのは二日後であったし、そ  
れも元気な五年生が数十  
人・校庭の空間放射線量は  
0.1〜0.2マイクロシー  
ベルト程度であった。」

「限られた時間と空間を可能  
な限り使い、子どもたちに創  
り上げていく喜びや成就感を  
持たせようと十一月五日、学  
習発表会が開かれました。

## 五年生合唱奏

『わたしたちは負けない』

平成二十三年三月十一日  
忘れることの出来ないその日

## 全その日

大きな地震と津波がおそつて  
きました。

わたしたちの南相馬でも多く  
の建物が流され、  
多くの方が亡くなりました。  
悲しみにくれていたわたした  
ちに、追い打ちをかけるよう  
におこった

その後の原発の事故  
避難先では、これからどうな  
るのだろうかと不安でいっぱい  
でした。

鹿島小の校舎を借りての新学  
期のスタート。  
不自由ながらも、また学校に  
通える喜びをかみしめまし  
た。

激励に来て下さった方々、  
全国からの応援のことは、  
たくさんさんの支援物資。

わたしたちは、前に進むがん  
ばる力をいただきました。

感謝の気持ちでいっぱいです。  
全ありがとうございました。

そして、わたしたちは十月十  
七日に原町第一小学校に戻る  
ことができました。

また自分の校舎で教室で学ぶ  
ことができ、本当にうれしい  
です。

でも、震災前まで一緒に学ん  
だ多くの友達とは離ればなれ  
です。

まだ、自分の学校に戻れず鹿  
島区で勉強している学校もあ  
ります。

一日も早くもとの大好きな南  
相馬に戻ってほしい。わたした  
ちは、そんな気持ちでいっぱい  
です。

全いっぱいです。  
わたしたちが、できることは  
何だろう。

わたしたちができることは、  
家族や友だちを大切にするこ  
と、勉強やお手伝いを精一杯  
がんばること

そうだった、今、目の前にある  
ことなんだと思います。

私たちは精一杯がんばりま  
す。

全がんばります。

私たちは、これからも夢と希  
望をもつて生きていきます。  
全生きていきます。

そんな気持ちを込めて 翠せ  
運べるように」を歌います。

この歌は、16年前の阪神淡路  
大震災の時に作られた歌で  
す。

神戸で被災した小学校の先生  
が、神戸の復興を願い、この歌  
をつくられました。

その後は、希望の歌として、神  
戸をはじめ、たくさんの方に  
歌いつがれてきました。

そして、今回の震災で東北を  
元気づけようと神戸からこの  
歌が届きました。

みなさんに幸せを運べるよう  
に歌います。

どうぞお聞きください。  
『あわせを運べるように』

(129ページ、以下略)

全国女性教職員学習交流集会  
十月六・七日 IN東京  
講演・映画監督 海南友子さん  
「3・11フクシマーいのちを  
考える」 分科会など多数